

第10回 いかんしょ!会津ふれあいコンサート

シルクロードの調べ

イスラムの国から朝鮮半島そして日本へ



西田ひろみ
(バイオリン)



朴英淑
(伽耶琴 (カヤグム))



坂田梁山
(尺八)



康明姫
(小奚琴 (ソヘグム))



木村 俊介
(笛・三味線)



稲葉美和
(箏 (ソウ))



河 栄守
(チャンゴ、コムongo)



木村たかのぶ
(ドラム・パーカッション)



孫 明純
(洋琴 (ヤングム))

〈順不同〉



民族楽器重奏団民楽(ミナク)

1990年に康明姫(カン・ミョンヒ)氏により結成された在日コリアンの民族音楽集団。自国の民族音楽を愛してやまない在日コリアン達で構成される。日本各地、そして韓国、アメリカ、ロシア等、海外での多種多様な演奏会に参加。

民楽(ミナク)とは

民楽は、民族の“民”、楽器の“楽”の二文字を重ねた名。そこには「人々が民族の音色を楽しむ」という意味を込めた。

入場整理券
無料

2017. 8.26 (土)

場所 会津若松市文化センター

開場 17:00 / 開演 17:30

主催 会津清掃有限会社・福島産業有限会社・株式会社ニヘイ

協賛 第一清掃有限会社・会津若松市浄化槽清掃維持管理協同組合

プログラム

一部

独奏と楽器紹介

コムンゴ独奏	連連譜	河 栄守
尺八独奏	片足鳥居の映像	坂田 梁山
洋琴独奏	アリラン	孫 明純
バイオリン独奏	サマーイヒジャーズカルクルディ	西田ひろみ
津軽三味線独奏	即興曲 幻夜行路	木村 俊介

ソウ カヤグム ～箏と伽耶琴演奏 弾きくらべ～

箏	あおのむこう	稲葉 美和
伽耶琴	サルプリ	朴 英淑
箏と伽耶琴演奏	アリランと赤とんぼ	

休憩

二部

西洋音色・朝鮮半島の民族楽器と和楽器（邦楽器）とのコラボ
音楽劇 ～東風～もう一つのシルクロードから



坂田梁山 (尺八)

香川県生まれ。神戸大学在学中より岸原周山・川村泰山に師事。NHK邦楽技能者育成会第30期を卒業し、第13回都山流本曲コンクール金賞・文部大臣賞受賞他、各種コンクールで受賞。鬼太鼓座公演、劇団四季ミュージカル、片岡鶴太郎主演ミュージカル参加に加え、小椋佳、南こうせつ等のコンサートにも参加し、多くのミュージシャンと共演、海外公演も数多く行う。CD録音、テレビ（題名のない音楽会他）、ラジオ（邦楽ジョッキー他）にも多数出演。尺八を中心としたバンド「ニュートラル」を率いてCD制作をする等、古典から現代音楽に至るまで幅広く活動を行う。都山流尺八大師範、桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師。



康明姫 (小奚琴 (ソヘグム))

6歳からピアノを始め9才のとき自国の民族楽器と出会う。民族楽器演奏家として活動、後継者育成に力を注ぐ。1990年、日本で初めての在日KOREANによる民族楽器重奏団〈民楽〉を結成し以来団長を務める。アメリカ・メネス音楽大学、リンカンセンターで公演、韓国・ソウル、ロシア・ナホトカでも招待演奏。1995年に「民俗工房」を設立主宰、各種演奏会の企画プロデュース。2004年梁石日の小説を映画化したピートたけし主演「血と骨」でチャンゴ演奏、「日本の歴史・大化の改新」（2005年12月放送フジテレビ）に出演演奏、「音楽劇もう一つのシルクロード」（萩野日慶子・清水宏一主演、日本・ソウル公演）、音楽舞踊劇チェジュ・バラなどプロデュース、アジアを中心とした文化発信に力を注ぐ。



河 栄守 (チャンゴ、コムンゴ)

金剛山歌劇団 チャンゴ、コムンゴ、チャンセナプ奏者。
在日3世、12才よりチャンセナプ（朝鮮半島のチャルメラを改良した楽器）を始め、1984～1989年平壤音楽舞踊大学通信学部卒。
朝鮮半島の民族音楽を究めながら、実験的なサウンドを模索し各地のミュージシャンとの共演を行っている。日本、朝鮮、韓国、米国で精力的に公演。
ソリストとして活躍、器楽ユニット<HYANG>の創設者であり、リーダー。



朴英淑 (伽耶琴 (カヤグム))

民族教育を受ける中で10歳の時伽耶琴（カヤグム）と出会う。
高校生の時、ピョンヤン音楽舞踊大学にてチャヒョンソンの元で本格的にカヤグムを習う。22歳のとき民楽（ミナク）に入団し、現在に至る。
1996年 民族音楽の夕べ 伽耶琴重奏主席奏者を務める。
1999年 ニューヨーク公演、カザルスホール公演では 雑誌「朝日グラフ」の4面を飾る。他、大小様々な催しで公演演奏。



稲葉美和 (箏)

4歳より生田流箏曲を学ぶ。CD「遠くへの雨」「あおのむこう」（コントラバスとのデュオ）、「桜の咲くころに」（箏ソロ）等。オリジナル曲を中心としたコンサート活動をする他、NHKスペシャル「大地の子を育てて」（2005年日本賞グランプリ受賞番組）を始めとするTV、ラジオ番組等の音楽制作参加や出演、小椋佳やヤドランカのコンサートツアーに参加するなど、个性的で心地よい音づくりを追求し、邦楽器の為の作曲・編曲も多数。H.24年度宮城道雄記念コンクール作曲部門第一位。



木村たかふ (ドラム・パーカッション)

59年、東京生まれ。83年東京キッドブラザース「SHIRO」の全米ツアーに参加。その後、同劇団の舞台音楽制作、研究生の指導に携わる。
92年より薩摩琵琶の坂田美子らのグループ「びかむ」に参加。96年より春日博文（元カルメンマキ&OZ）、寺岡信秀（アナーキー）、ピョンインジャ（韓国舞踊家、歌手）らの「東京ビビンクラブ」に参加。02年より新田昌弘（津軽三味線）のレコーディング、コンサートに参加。08・09年ミュージカル「もうひとつのシルクロード」東京・ソウル公演に参加。ジャンルにとらわれず幅広く活動中。



孫 明純 (洋琴 (ヤングム))

民族教育を受け14歳で洋琴（ヤングム）に出会い、高淳姫氏に師事。15歳で本国の国立音楽大学通信学部に入學し、キムヨンスン氏に師事。
15歳で在日コリアン学生コンクールにて二重奏で金賞、17歳で同コンクール独奏部門で金賞受賞。2002年韓国で行われた学生招待公演に参加。18歳のとき民族楽器重奏団・民楽（ミナク）に入団し、ヤングム演奏家として活動。第30回アジア国際コンクールにて奨励賞受賞。二胡奏者馬高彦氏と関東を中心に巡回公演、2016年8月CD<YANGUM (洋琴) ヒストリー>リリース



西田ひろみ (バイオリン)

バイオリンを江藤俊哉、篠崎功子、竹内茂に師事。1995年作曲家冷水ひとみと微分音グループ、シジジーズを結成。ライブ活動、TV、CM音楽制作を行い、TZADIKレーベルより2作品をリリース。1995～98年、エジプト・カイロに滞在。アラブバイオリンをアブダギールに師事。現地のミュージシャンと共演しTV出演、エジプト国内、ヨーロッパ公演に参加。帰国後もレバノン、チュニジア、エジプト、アメリカなどで様々なグループの公演に参加する。2013年シジジーズの新作「fotona」をリリース。2015年、イタリアボローニャでのアンジェリカフェスティバルに出演。邦楽器との共演も多く、ジャンルを超えた微分音バイオリンのスペシャリストとして活動している。



木村 俊介 (笛・三味線)

和楽器奏者（笛・三味線他）として活動する一方、作曲・作詞・音楽監督等を行う。自作曲によるコンサートでは、心象風景や心の動きをモチーフとした音楽で独自の世界を展開している。また、日本各地の民俗芸能の旋法・リズムを取り入れた音楽は海外でも高く評価され、これまでに世界30カ国以上の音楽祭に招聘出演している。'15年 演劇倶楽部「座」公演『ひやめし物語・ちゃん』（壤晴彦演出）にて音楽を担当。'15年 坂東玉三郎演出・主演、鼓童『アマテラス』（大阪松竹座）に楽曲・詞を提供。'16年歌手・おたか静流氏をゲストに『音楽コンサート』（早稲田スコットホール）を行う。'17年『水原国際演劇祭2017』（韓国・水原）に招聘出演。



金曾武彦 (音響スタッフ)

岡田 友子 (司会)

株式会社岡田プランニング 代表取締役。北海道札幌市出身、早稲田大学卒業（人間科学部 情報学科）、アナウンサー&マナー講師、コミュニケーションアドバイザー、Disc認定講師、(財)日本電信電話ユーザ協会講師。

〈順不同〉